

小松市重点目標

未来の創り手となるために必要な資質・能力を確実に育成する学校

授業の質的改革 → 資質・能力を確実に身に付ける児童生徒の育成

- ①児童生徒が 主体的・対話的に学習したくなる授業
- ②児童生徒が 自己の思考を深め、自己表現したくなる授業（思考力・記述力・発表力）
- ③児童生徒が 自己の学習をふりかえり、学びを実感できる授業

組織的な体制・環境づくり → 児童生徒に資質・能力を身に付けさせる教員の育成

- ④教職員が 目標や課題を共有し自己の役割に責任を持ち、課題の解決に取り組む
- ⑤教職員が 授業力を高める。切磋琢磨し学校研究に取り組む
- ⑥教職員が 児童生徒が主体的に活動できるように環境を整える

令和３年度 学校評価重点計画

小松市立国府小学校
学校長 中川 千英

目指す児童生徒像 「自分から動き出し、共に伸びる子」
～やさしく かしこく たくましく～

【自分から動き出す】主体性→個の力を育てる・強くする

- ・自ら気づき、考え、判断し、行動する姿 ・何事にも主体的に取り組む姿

【共に伸びる】 尊重・協働→集団の力を高める

- ・目標達成に向けて協働して取り組む中で、互いを尊重し、自分も仲間と共に伸び
みんなで高めていく姿

（１）学校の課題

- ・自主的な態度は育ってきている。自主性の姿から自分で（自分たちで）考え行動できる主体性の姿へと高めることが求められる。
- ・授業には真面目に取り組む児童が多い。学びの質を高めるために、児童自ら問いをもち粘り強く取り組んだり、関わり合いの中で解決し共に伸びようとしたりする力を育成する必要がある。

（２）具体的な方策と検証

- ①児童が主体的に企画運営する活動（児童会・縦割り活動）の推進、意図ある教師の働きかけ
- ②児童が楽しく学びがいのある授業の実践（学校研究を中心に）、校内研修の充実
- ③共に伸びることのよさを実感できる教育活動の推進
- ④生徒指導の三機能を生かした集団づくり、授業づくり（居場所づくり）
- ◆学校経営ビジョン・学校力向上ロードマップ・学校評価が機能的、効果的に運用されるように、短中期的に評価し改善する。（アンケート、はかせテスト、国府検定等）